

セ ン サ ー

1992年 1月号 第25号

東京温度検出端工業会 会報

新春に当って

会 長 西 村 明

会員の皆様お目でとうございます。

昨年世界的に云えば波瀾の年であったと思います。国内でも色々な問題はありましたが大きく社会を揺さぶる様な事はなく、まずまずの一年であった事は御同慶の至りです。但しこれからはむしろ苦しい年になるのではないのでしょうか。

国際的にはまず一月に湾岸戦争が勃発し、石油問題等先行きが心配されましたが、之は地上戦に移るやイラク軍が手もなく崩壊して終結しました。しかし日本は90億弗の戦費負担をしたにもかかわらず、国際的な評価は冷たく、我国の危機対応能力の欠除が明らかにされました。一方東欧の共産党離れ、バルト三国の独立宣言等、旧ソ連勢力圏の混乱は依然として続き、8月には遂にお膝元のソ連でクーデターが起きました。このクーデターは一週間以内に終結しましたが、之を契機にソ連盟内部の各共和国の分離独立傾向が強まり、今に至るまでガタガタしております。しかもソ連の経済危機は一向に好転の様子が無く、今後に大きな問題を残しております。又EC諸国の間では唯一、日本と同様大きな経常黒字を出していた優良企業であった西独も、東独合併の為に予想以上の負担を背負って苦しくなり、アメリカも湾岸戦争に勝って氣勢を挙げましたが、双子の赤字は益々拡大して不況を克服出来ない現状です。

こう云った世界情勢を見ますと日本は良い方だと考えられます。勿論、この一年を回顧しますと、政治的には懸案を残しての政権交代があり、経済的には金融界の不祥事があり、更に夏以降の急速な景気の冷え込みが問題ですし、社会的には雲仙の噴火や台風による一部地域の深刻な被害はありましたが大多数の国民にとって社会不安もなく、その日その日を平穩に送って来られた事で、まず幸弱であったと云えましょう。

唯、最近の世の中の風潮につき、気になる事が時々あります。ここでは二つの例を

挙げて、私見を申し上げ、御批判を仰ぎたいと存じます。

一つは「ゆとりある生活」と云う事です。生活にゆとりを持つ事は大賛成です。私事を申し上げて恐縮ですが、私の会社では昭和44年に五ヶ年計画の内に完全週休2日制を取り上げ、五年目の昭和49年に完全実施をして今に至っております。今から二十年以上前のその頃は大企業でも週休2日制は一部に採用された程度でしたし、特に完全となるとまだ数える程しかなく、中小企業では皆無と云って良い程でした。従って、特に工場現場からは之では仕事が出来ないと云う反対がありましたが、それを説得し、又押切って実行に移した結果は良かったと思っております。唯その際、作業密度を濃くする事により、生産量を低下させずにこの制度を達成した従業員の努力があった事を考え、我々がゆとりある生活をして行く為にはこの様な心構えが必要であると思われれます。

即ち、仕事は密度を濃く、効率化して今迄より短時間で仕上げ、余裕の出た時間は仕事を離れて楽しむと云う事です。処が今云われている「ゆとりある生活」とは、日本人は働き過ぎだと総括した上で仕事をもつと減らせと云うのだけが見様によれば怠慢になれとも聞かれるのです。私自身、現在は怠慢な生活を送っていますが、之は年に免じて貰うとして、少くとも六十才迄は一生懸命に働く事を忘れて貰っては困ると思えます。

今一つ「企業の社会的責任」に就て申し上げたい。最近この言葉が用いられる内には、本業以外に何等か社会に貢献しない企業は存続する価値が無いと迄云はれるのと、本業での利潤追求を罪悪視する見方が含まれる様です。之は見当違いも甚しいもので、企業は本業で社会に貢献するからこそ存続出来るのであり、もしその仕事が反社会的なものであるなら、一時は大きくなってもいずれ淘汰される筈です。又、企業は利潤を出す事に依って従業員、株主、更に社会に環元が出来るのであり、不正な手段でも利潤追求でない限り、之を罪悪視するのは本末を誤るものと思えますが如何でしょうか。

今年は苦しい年になると思えますが、苦しい時ほどお互の協力が必要になる筈です。その意味で、この会が多少とも皆様のお役に立つ事を期待し、皆様の御健勝を祈念して新年のご挨拶と致します。

以上

工場見学会

萩野 紘 一

西村会長及び山里産業(株)殿の御好意により、11月8日～9日にわたり、神戸市灘区の(株)神戸製鋼所と西宮市鞍掛町の(財)白鹿記念酒造博物館を見学する事ができたので紀行文風にまとめて御報告します。

11月8日定刻に東京駅を発車した「ひかり75号」は参加者一行12名を乗せ神戸へ向った。朝から久方ぶりの雨になり、時折強く降ったり止んだりし、名古屋付近では一時薄日が射したりする様な変り易い天気になった。皆、退屈さを感じ始めた頃、予定通り新神戸駅へ着き、現地参加の西村会長ら3名と合流し総勢15名となった。神戸も雨模様で、今日の見学会は雨かなと思いつつ、昼食を近くのビル内だという事になったが、行き違いもあって8名と7名に分かれてしまい、お互いかなりの時間捜しまわってやっと出会えたのだが、スタートからとんだハプニングとなってしまった。タクシーに分乗して神戸製鋼所灘浜工場へ向う。東京や大阪とは違った落付いた感じのする街を走る。昼食のハプニングの為、工場へは20分前後遅れたであろうか午後1時過ぎに到着し、早速御担当者により工場の設備・工程などの概要について説明していただいたが、その内の一人は、3年連続日本一というラグビーの山下選手で、熱電対等の購買担当との事であった。

製鉄所としては狭い方だとはいいながら、場内をタクシーに分乗して見学した。小生などは始めて見る諸施設や高炉、棒鋼の圧延工場などに見るコンピューター制御による作業や、徹底された管理ぶりを拝見し驚きであった。さすが日本の基幹産業として世界経済をリードするその力強さに感銘を受け、又関係者に感謝しつつ工場を後にした。

折よく天候の方も回復しつつあるのか雲が切れ、六甲山を垣間見る事さえできた。この後六甲ケーブルで登る予定でもあり、山のすばらしい紅葉と眺めを期待しながらタクシーでケーブル下駅へ急ぐ。急斜面をかなりなスピードで登っていくケーブルカーで山上に出ると、やはり期待した通りの眺めが待っていた。先刻見学した製鋼所が正面下に小さく見え、煙突から煙がたなびいていた。又大阪湾や紀伊半島方面も遠望する事ができ、一同しばしその風景を楽しんだ。有馬温泉へロープウェイを乗り継いで行ったが、先刻の天気はうその様にガスがかかってしまい、周りは何も見えず、文字通り雲の上を行く気分ですら有馬に到着、迎えるマイクロバスでホテル銀水荘に到着した。宴会は人数が少なかつたせいか今一つ盛り上りを欠いたが、見事な庭園に面した部屋で気分も和んだ。

翌日は電車で三宮駅経由阪神西宮駅へ出、西村会長の奥様の御実家との縁で「白鹿記念酒造博物館」を見学させていただいた。

清酒「白鹿」の辰馬本家酒蔵(株)は、寛文2年(1662)の創業で、本年で329年という。

長い酒づくりの歴史を広く世間に紹介する為にこの博物館が作られた由である。

この博物館は「第24回建築業協会賞」など数々の賞を受けられている。歴史的な建物「酒蔵」「辰馬喜十郎邸」とこれをつなぐ「帳場」を含め、この四つを中心にして酒づくりの工程や道具類、或はその仕掛けを館長の好意ある御案内により拝見した。

特に「酒蔵」は明治25年7月の上棟で、現存するレンガ造りの建物では第一級といわれ、一步内に入るとまるで当時にタイムスリップした様な錯覚に陥る程であった。その時代は桶や樽を始めとす

る容器や用具或は輸送など全て職人の手造りばかりであり、今の工場での生産から見れば、気の遠くなる様な手間がかかっていた事を想い、当時の味と現在の工場生産の味とを飲み比べて見たいと思ったのは私一人ではなかったと思う。その想いは見学の最後に生酒を一杯振舞っていただき感激であった。しかもその生酒や酒粕などのセットをお土産にまで戴き、大いに恐縮してしまった。御礼もそこそこに、昨日とは大違いの暑いくらいの日差しの中を徒歩で阪神西宮駅へ向う。途中あらゆる酒蔵会社の建物が目につき、さすがに酒文化の香りがただよう街の雰囲気であった。西宮駅を後に梅田駅へ出、更に新大阪駅より「ひかり 112 号」に乗りし帰路についた。車中では先刻の御土産や、別に買求めた生酒を賞味しながら土産話に花を咲かせるグループもあり、和気あいあいの見学会であった。

完

第24回「けんたん会」報告

11月28日、相模湖カントリークラブにおいて行いました。秋も深まって天気も安定し、雨の降る確率は低い頃だと思えますのに当日はあいにくの雨になってしまいました。

11月に雨が降ったのはわずかに2回ほどだったと思えますのでメンバーのなかにもかなりの雨男いると思わざるをえません。

さて、ともかく朝のうちは小雨でしたので何とかこのままならば一日プレーできるだろうということでスタートすることにしました。

今回の初参加者は、デグサジャパン(株)のR・ウイスナー社長、(株)ニッカト一の向井部長、久しぶりの参加者として東京岡崎産業(株)の津越常務がお見えになりました。コースに出ますと雨もそれほど気にならず雨具も脱いでプレーすることが出来るほどでした。周囲の山に雲がかかって日本画の墨絵を見ているようで、雨の中のゴルフもなかなか良いものだ、ぐらゐの感じでした。しかし最後まではそううまくはいきませんでした。残り3ホールぐらゐになりますと雨が激しくなってグリーンに水が浮いた状態になりボールが転がらなくなってしまいました。雨中のプレーのため進行も遅れ1ラウンド終ることもおぼつかなくなってきましたので残念ながら9ホールで終ることになりました。半分で終ったのはこのコンペでは2回目になると思えます。ウイスナー社長は雨中にもかかわらずスタート前に入念に練習をされるなどはりきっておられたようですのに本当に残念でした。

優勝したのは久しぶり参加の津越さんでした。欠場している間にかなり腕をあげられたようです。このコンペは24回、15年ほど続けております。この間参加者は延べ40名ほどになりますがハンデは全部記録されております。前回のハンデはそのまま参加できることにしておりますのでこれからぜひ参加してください。次回は5月中旬頃に予定しております。今度は雨にならないと勝手に思っておりますので。

成績		グロス	ハンデ	ネット
1位	津越 宏氏	46	12.5	33.5
2位	向井勇司氏	58	12.5	45.5
3位	秀城茂雄氏	53	6.5	46.5

平均スコア 56.8打。 雨の中、グリーンに水が浮いていたことを考慮に入れてあげてください。

会の動き

- ◎平成3年2月1日 新春懇親会
新宿「玄海」において 参加者 会員38名 来賓5名
会報「センサー」24号発行
- ◎ " 3月19日 見学会
日産自動車(株)追浜工場 参加者28名
- ◎ " 4月1日 事務局を(株)ニッカトーより林電工(株)に移し事務引き継ぎを行う
- ◎ " 5月24日 第18回定時総会
事業報告 会計報告の後役員改選を行う
新理事会社名 石福金属興業(株) 助川電気工業(株) 相互電機(株) 田中貴金属工業(株) (株)徳力本店 (株)ニッカトー 二宮電線工業(株) 古河特殊金属工業(株) 山里産業(株) 林電工(株)
会場において理事会を開き、新会長に西村明氏を選出。
総会后懇親会に移り、前会長二宮三郎氏、前事務局長の八木晋氏に記念品を贈った。参加者34名
- ◎ " 6月4日 中国 計測機器視察団と会談
会長 事務局長出席
- ◎ " 6月19日 新都庁舎見学会 参加者29名
- ◎ " 9月 会員名簿を新しく作整し、発送する
- ◎ " 9月19日 技術講演会
(株)電力中央研究所 石川浩氏により「高温燃料電池発電技術」について
参加者31名
- ◎ " 11月6日 技術研究会
都立工技センターにおいて 東京都技術アドバイザー 福田昭一氏により現場における温度計測の実例について
計測制御部 河村昭利氏により ITS-90の温度補正のパソコンプログラムについて
同じく尾出順氏により インテリジェント測温抵抗体について
参加者23名
- ◎ " 11月8、9日 見学会
8日 (株)神戸製鋼所見学 有馬温泉(泊) 9日 辰馬酒造本家見学
参加者15名
- ◎ " 11月25日 業態調査を行い、通産省計量行政室に報告。
- ◎ " 11月28日 ゴルフコンペ
相模湖カントリークラブにおいて 参加者10名

理 事 会

平成3年2月1日

- ◎3月の工場見学会は日産自動車(株)追浜工場とする。
- ◎4月1日より事務局を林電工(株)内に移転する。事務局長は林電工(株)センサー部の秀城茂雄氏とする。

平成3年4月11日

- ◎定時総会を5月24日に行うことを決定。

平成3年5月24日

- ◎会長に(株)ニッカト一会長の西村明氏を互選。

平成3年6月6日

- ◎年間行事と担当理事を決定。
- ◎9月に技術講演会を行う。

平成3年9月19日

- ◎11月の工場見学会は神戸製鋼所、辰馬本家酒造にお願いする。
- ◎ゴルフコンペを11月28日、相模湖カントリークラブで行うこと。
- ◎新春懇親会を2月7日に行うこと。

平成3年12月5日

- ◎新春懇親会は2月7日ぎんざスエヒロで6時より行う。
- ◎3月の講演会は作家、評論家の杉田望氏にアジア経済の現状について講演していただくよう交渉する。

電気計測器生産実績(通産省生産動態統計)

生 産		'90/9~11月平均	'90/12~'91/2	'91/3~5	91/6~8
自動平衡 記録計	数量(台)	2,676	2,471	2,565	2,528
	金額(百万円)	698	621	662	566
	前年比(%)	+2.7	+0.2	-9.4	-20.2
工業計器	金額(百万円)	27,297	24,186	33,561	24,838
	前年比(%)	+5.6	+2.0	+15.5	+8.5
温度計	数量(台)	23,979	19,541	23,696	21,374
	金額(百万円)	571	470	491	506
	前年比(%)	+18.7	+22.4	-7.2	+3.9
指示記録計	数量(台)	15,955	15,502	16,465	16,799
	金額(百万円)	1,674	1,542	1,662	1,542
	前年比(%)	-2.7	-8.8	-5.2	-4.4
調節計	数量(台)	32,524	30,446	30,567	31,635
	金額(百万円)	1,506	1,381	1,503	1,329
	前年比(%)	-0.5	+3.2	-3.0	-3.7
プロセス監視 制御システム	数量(台)	4,960	4,727	4,925	3,705
	金額(百万円)	10,187	8,312	13,654	8,793
	前年比(%)	+9.0	+5.3	+25.4	+12.0

日本電気計測器工業会会報12月号による。

東京温度検出端工業会業態調査アンケート報告

1ヶ月平均売り上げと伸び率(単位千円)

	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年見込
売り上げ	1,051,000	1,298,100	1,547,590	1,640,510	1,727,060	1,794,000
伸び率(%)		+23.5	+19.2	+6.0	+5.3	+3.9

今後2年間の成長見込み(%)

-5.0~0.1	±0	+0.1~5.0	+5.1~10.0	+10.1%以上
25	15	30	15	15

資料が共通している21社の資料による。大まかに日本国内の検出端業界の50%ほどにあたると思われます。

編集後記

1年前のこの欄をみますと湾岸戦争突入直前の様子が書いてあります。戦争に突入した場合の影響がどのようにあらわれるのかわからず、ただ心配だけが増幅していたように思います。結局戦争になり、その結果はご存知の通りです。この戦争を含め、1年間、国の内外で本当にいろいろなことがありました。その最大のはソ連邦の崩壊でしょう。文字通りこういうのを歴史的イベントといふのでしょうか。いったいどこへゆくのか、このまま落ちついてゆくのか、さらに大きな混乱のはじまりになるのか、混乱が拡大するようだとその影響があまりにも大きく、心配です。

国内では大きな経済事件が相次ぎました。どうなっているのか事件が報道されるたびにただ啞然とするばかりでした。企業は利益をあげなければならないですけれども、それが度を越してしまい、利益至上主義になり社会的責任を欠いてしまったということなのでしょう。

国連の報告によりますと、1991年の世界のG N Pは第二次大戦後初めてマイナスになる見込みとのことです。1992年も景気について良い話は聞かれず、同じような年になりそうです。日本国内の景気も一年ほど前から減速を感じさせはじめ、ここへきてさらに強くなってきたように思います。しかし心配ばかりしていてもしょうがないですね。この際体質の点検をしてみましょう。水ぶくれないか、ムクなことはないか等不況にも強い体質を目指して頑張りましょう。

平成4年1月発行 No.25

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151